



森下仁丹

2014年3月20日
森下仁丹株式会社

報道関係各位

森下仁丹と神戸大学が共同で出願した「ビフィズス菌を用いた経口ワクチンの特許」を用いて
神戸大学がC型肝炎の経口治療ワクチン候補の開発に成功

森下仁丹株式会社(本社:大阪市中央区、代表取締役社長:駒村純一)は、神戸大学大学院医学研究科感染症センターの白川利朗准教授とビフィズス菌を応用した経口ワクチンを研究し、共同で特許を出願[※]しております。この度、神戸大学の研究チームが、本技術を利用したC型肝炎の経口治療ワクチン候補の開発に成功したのでお知らせ致します。なお、本研究成果の一部は、ワクチン専門科学誌「Vaccine」のオンライン速報版で近く公開されます。

■本研究の概要

慢性C型肝炎症例は、有効な治療法の開発が望まれており、新しい治療薬が開発中ですが、いずれもウイルス増殖を標的にした方法で、患者さん自身のC型肝炎ウイルスに対する特異的な免疫力を高めて治癒率の向上を図る治療法の開発はほとんど無いというのが現状です。

神戸大学大学院医学研究科の堀田博教授、白川利朗准教授、石川県立大学の片山高嶺教授らの研究グループは、地球規模課題対応国際科学技術協力(SATREPS)^{※2}の一環として、ビフィズス菌を利用した経口内服という簡便な投与方法で、C型肝炎ウイルスに対する免疫力を高める経口治療ワクチン候補を開発しました。実際にマウスに経口投与すると、ウイルスに対する免疫力が高まり、治癒率の向上をもたらす併用治療薬として実証されれば、C型肝炎の治療に役立つことが大いに期待されます。

■今後の展開

今後、神戸大学と当社は、動物実験により薬効・薬理試験や安全性試験等の前臨床試験を行う予定ですが、善玉菌として知られるビフィズス菌を利用し、しかもそれを加熱殺菌しているの、あまり大きな問題はないと考えられます。また、当社独自の腸溶性シームレスカプセルに内包することで腸への到達性を向上させ、経口ワクチンとしての効果、利便性や保存性を高めることも検討致します。

森下仁丹では、様々な新用途カプセルの実用化へ向けて積極的に取り組んでおり、本技術の特徴を活かした医薬品開発を推進し、中長期に亘る業績の向上と企業価値の拡大を目指して参ります。

※神戸大学のC型肝炎の経口治療ワクチン開発に関する詳細は、

神戸大学ホームページ: <http://www.kobe-u.ac.jp/topics/top/t2014.03.20.02.html>

【リリースについてのお問合せ先】

森下仁丹株式会社 経営企画部 担当:森下・磯部 TEL:06-6761-1131 FAX:06-6761-1661
共同PR株式会社 第六業務局 担当:長尾・呉 TEL:03-3571-5236 FAX:03-3574-9364



【注釈】

※1 特許名称：ピフィズス菌表層提示融合タンパク質発現遺伝子
出願人：森下仁丹株式会社、国立大学法人神戸大学
出願番号：特願2009-216256

※2 SATREPS:地球規模課題対応国際科学技術協力(SATREPS, サトレップス)とは、科学技術と外交・国際協力を相互に発展させる「科学技術外交」の一環として、独立行政法人 科学技術振興機構(JST)と独立行政法人 国際協力機構(JICA)の連携により、地球規模課題解決のために日本と開発途上国の研究者が共同で研究を行う3～5年間の研究プログラム。日本国内など、相手国内以外に必要な研究費についてはJSTが委託研究費として支援し、相手国内で必要な経費については、JICAが技術協力プロジェクト実施の枠組みにおいて支援する。国際共同研究全体の研究開発マネジメントは、国内研究機関へのファンディングプロジェクト運営ノウハウを有するJSTと、開発途上国への技術協力を実施するJICAが協力して行う。

JSTホームページ : <http://www.jst.go.jp/global/about.html>

JICAホームページ : <http://www.jica.go.jp/activities/schemes/science/index.htm>